

第五百七十七圖

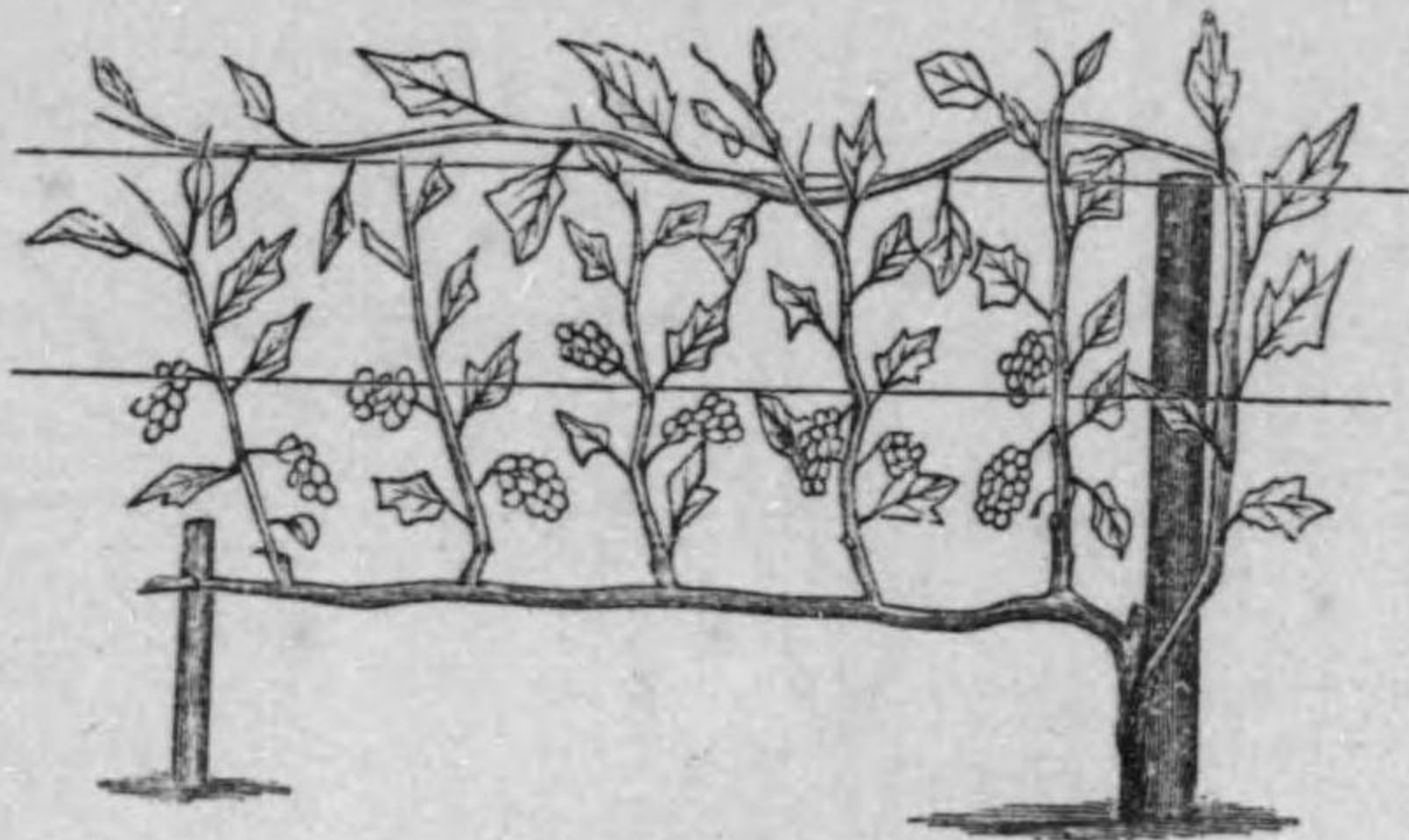
第五百七十七圖の如く長さ六尺の杭の下端二尺を土中に打込み地上を三尺五寸乃至四尺として杭の上端に長三尺幅三四寸厚二寸位の横木を打ち付け之を桁とす而して桁の兩端を通じて二條の鐵線を緊張し更に杭の上端より七八寸乃至一尺の下方に於て一線を架すること凡て圖の如くす而して結果種枝は短梢或は半長梢となすものなり。

(ホ) ギュヨー整枝法 (Guyot's Training System)

此方法は略ホーイブレン整枝法に同じきも後者は種枝を水平線下に偃曲すれども前者即ちギュヨー式は種枝を水平線に偃曲するの異なるのみ此方法に依るときは種枝は一本にして長梢剪定を行ひ豫め地上一尺五

寸毎に三條の鐵線を架して第一線に種枝を誘引し發生したる結果枝は第二線に

第五百五十八圖
ギュヨー整枝



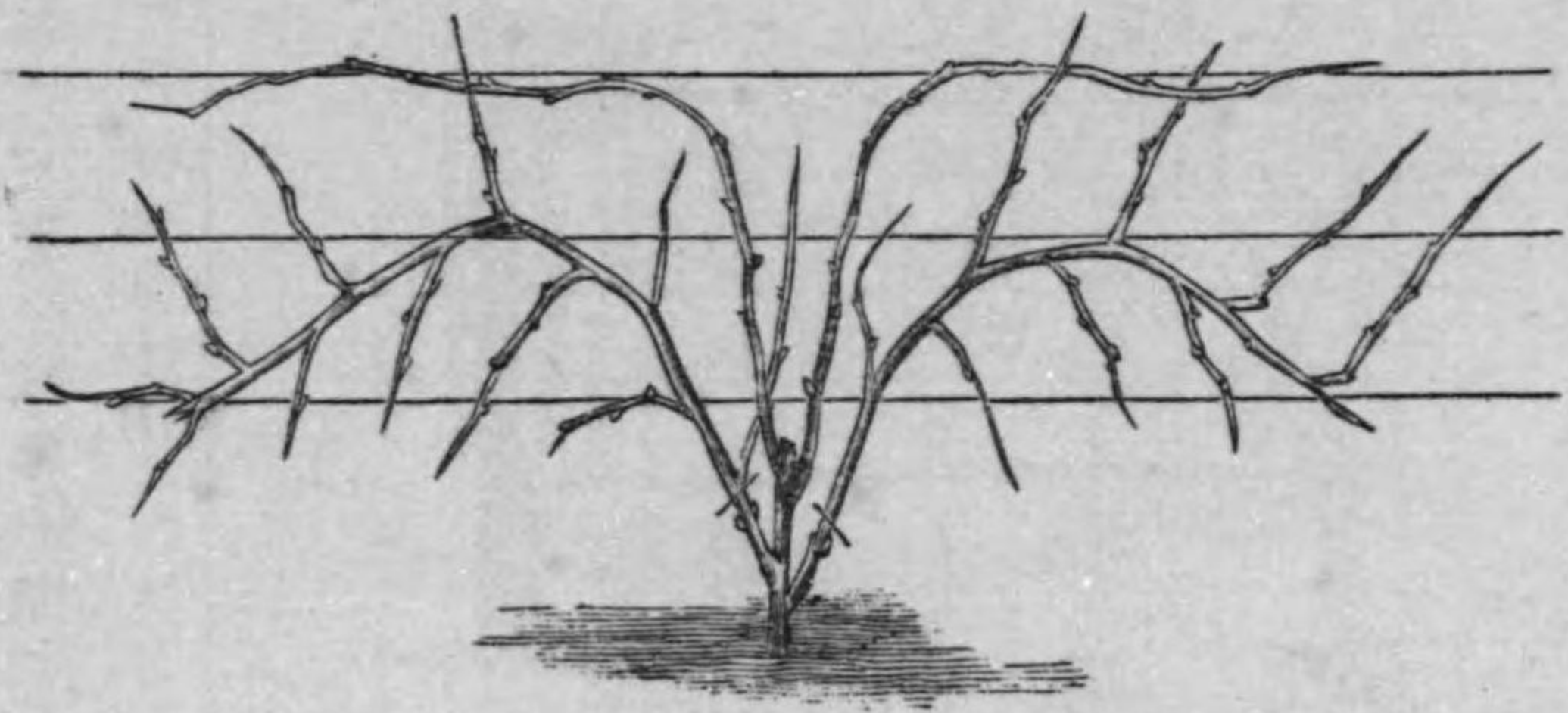
結着す而して結果枝を發生せしむると共に種枝の基部より豫備枝を立て、第三線に誘致するなり翌年は結果枝を豫備枝の點より切斷し豫備枝は前年と同じく長梢剪定を行ひ種枝となりて第一線の位置を占むるに至る、年々同様の方法を繰返して長梢更新法を行ふなり(第五百五十八圖)

(ハ) 弓形整枝法

弓形整枝法に種々あり、第五百五十九圖は普通唱ふる弓形整枝にして二本の種枝は第二段より第一段にかけて弓形に偃曲し種枝の内側より發生せる二本の新梢は豫備枝として上段に結着し種枝更新の用に充つるものなり。

此方法は一段のホーイブレン式と見做すべきものにしてニップキン式の如く結果枝を下垂せしむるにあり、

圖九十五百第



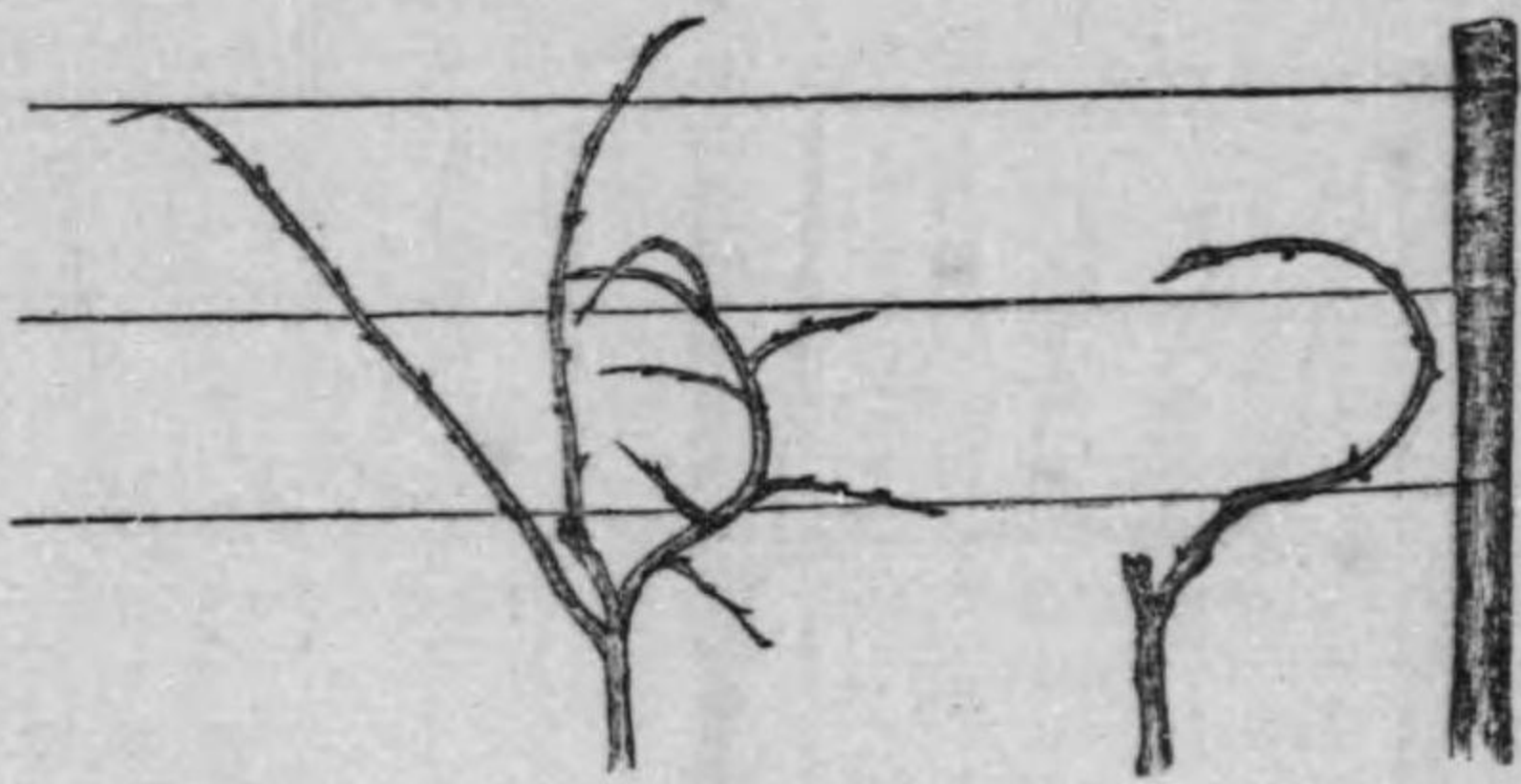
枝整形弓

第百六十圖の弓形整枝法はハズマン氏の唱導せる方法にして一名ハズマン氏弓形整枝法 (Husmann's Bow Training System) と云ふ。

初年に二本の枝條を發生せしめ一本は種枝として長梢剪定を行ひ弓形に鐵線上に纏絡するなり而して他の一枝は二三芽を残して剪定し翌年二本の新梢を發生せしめ上端の一枝は種枝となし更新を行ふ、下方の一枝は前年と同じく二三芽を残して剪去し毎年同様の方法を反覆して弓形狀の種枝上に結果枝を發生せしむるなり。

尙他に一法あり、第百六十一圖に示すが如き方法は是れなり、單に一本の主柱を要するのみにて幹身を地上二尺内外に切斷して主柱に結束す、毎年一本の新梢を立て冬季二尺五寸乃至三尺に剪定して彎曲し梢端を地下に挿入するか若くは短かき杭を設けて

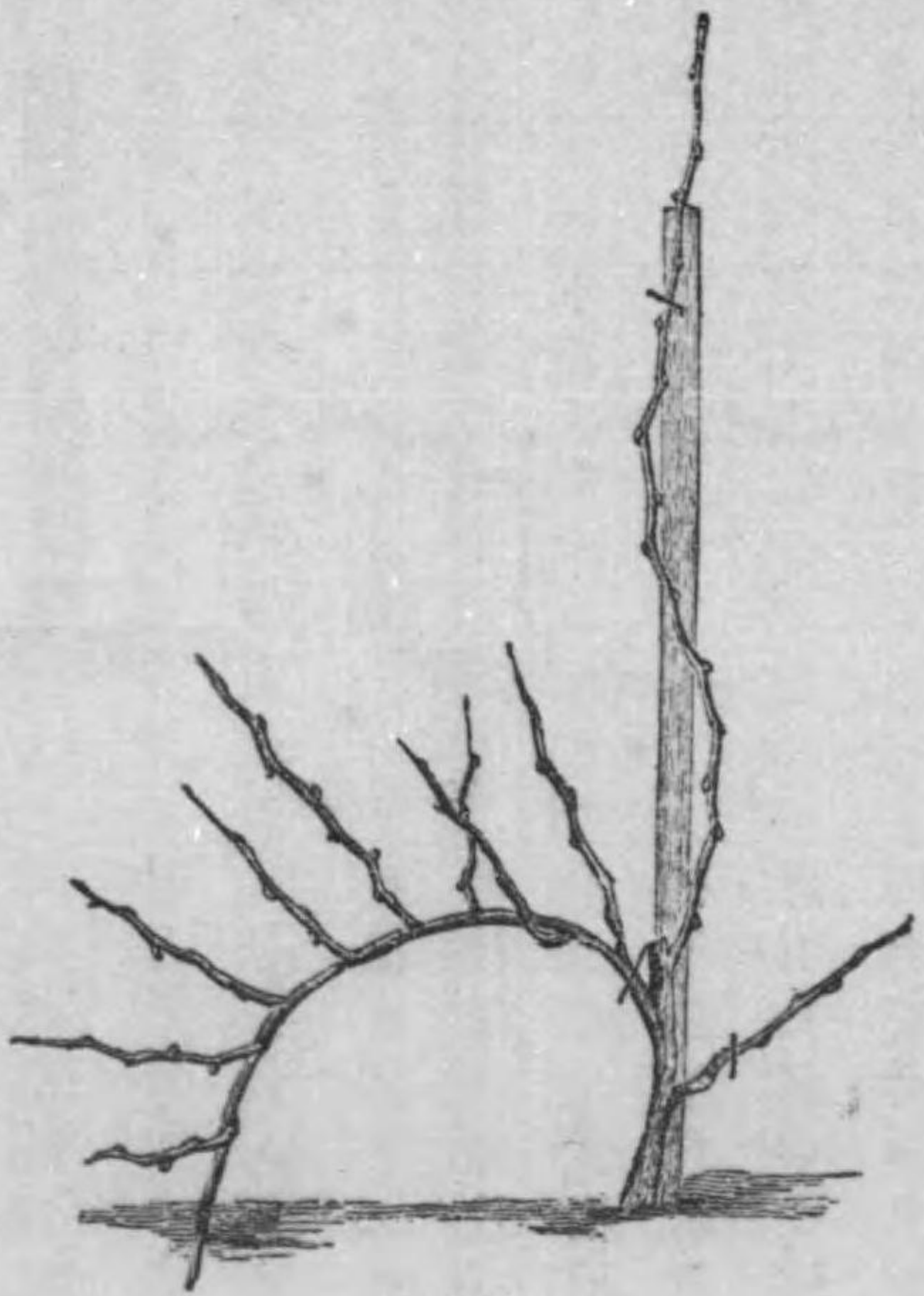
圖十六百第



枝盤形弓氏ンマズハ

纏絡するにあり、彎曲せる種枝よりは各節毎に結果枝を生すべく結果枝は夏季適宜摘心を行ひ結果せしむると同時に基部より豫備枝を立て、主柱に誘引し更新

第百六十一圖 弓形整枝



を圖るにあり、此整枝法は最も短節にして果穂の大ならざるビノ一屬の葡萄樹に
適し曾て佛國巴里附近にて好結果を得しことあり、

(ト) ホリゾンタル整枝法

此方法に二種あり、一つは長梢ホリゾンタル整枝法(Horizontal Arm Training System)にし

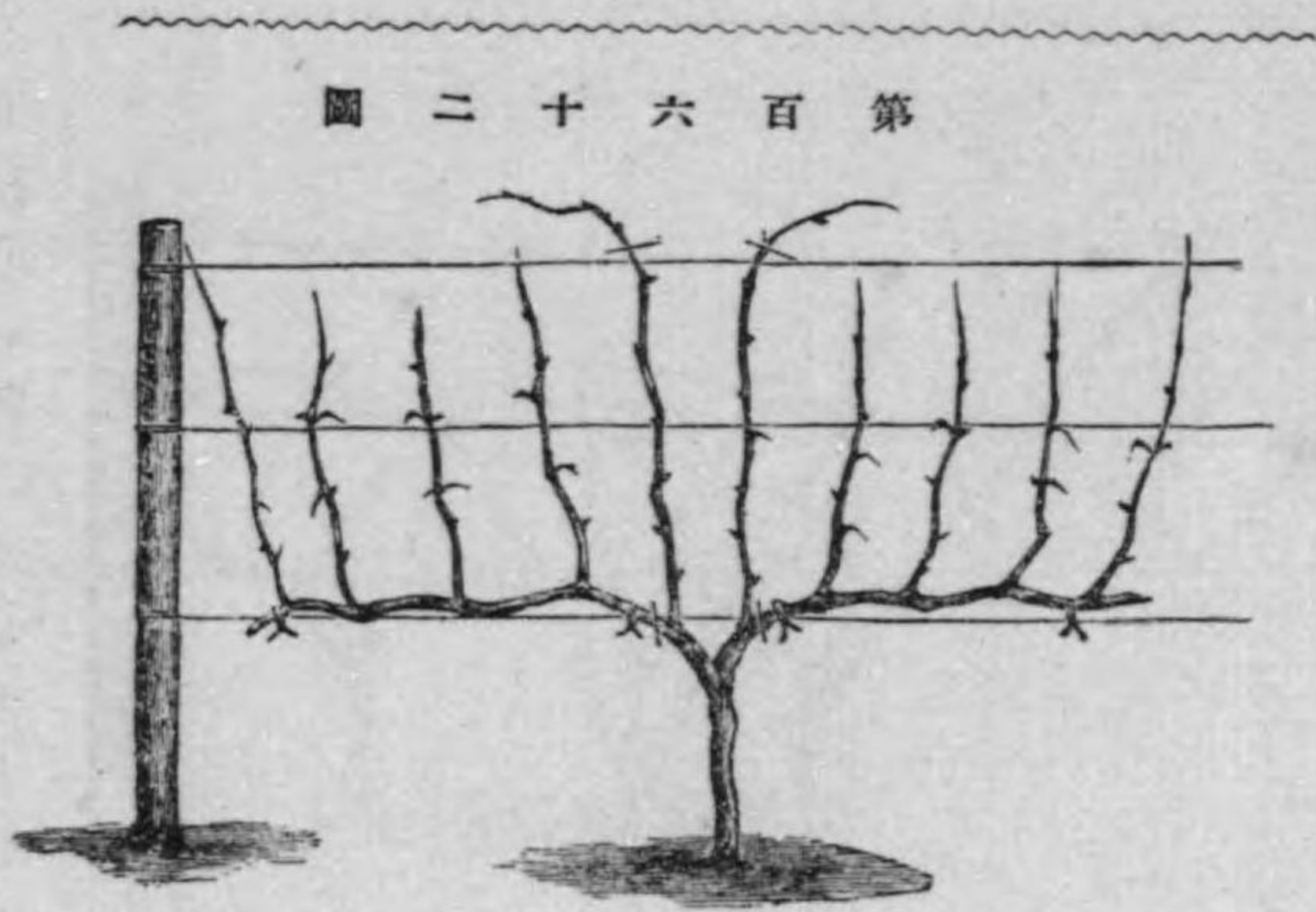
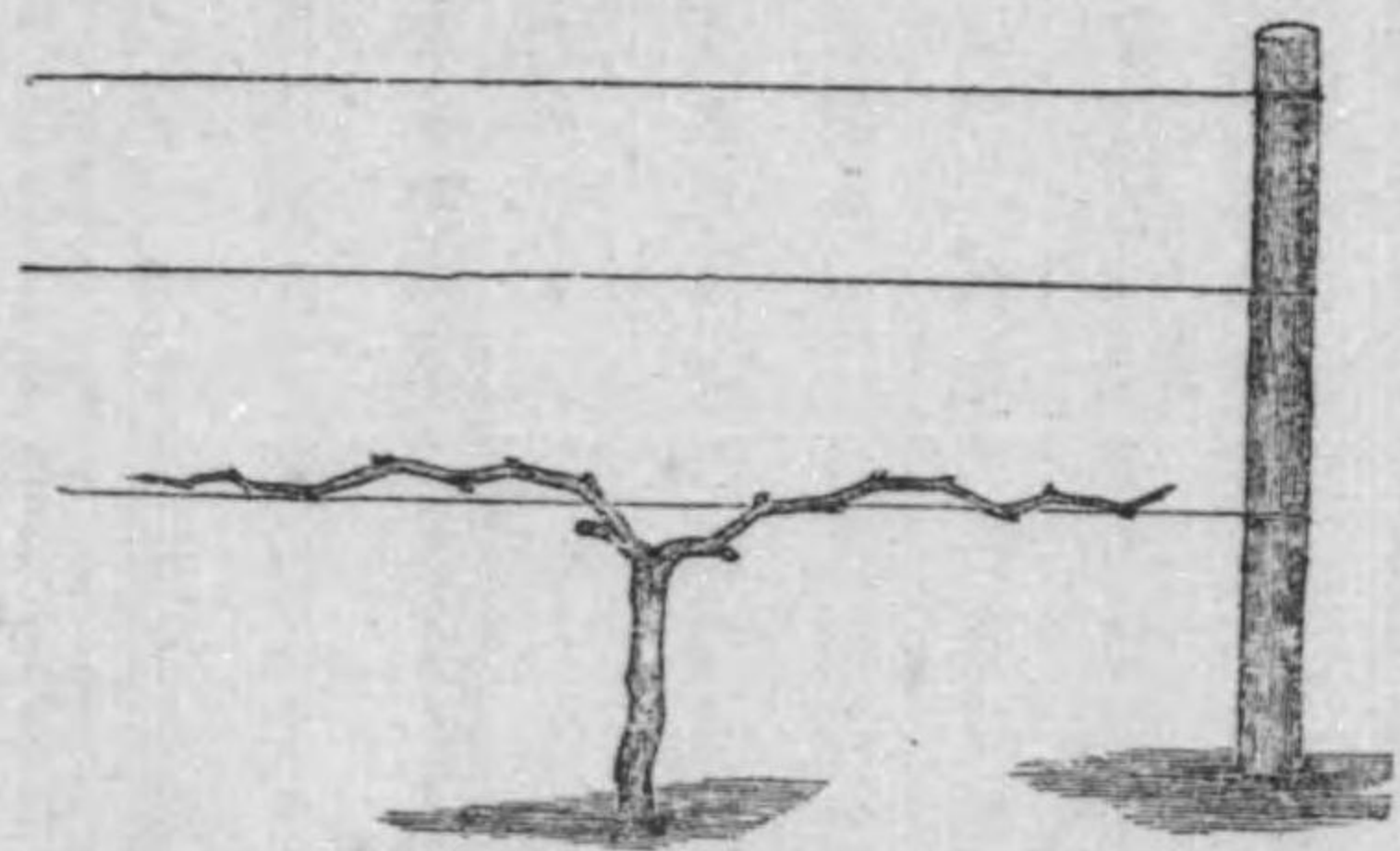


圖 二 十 六 百 第

長梢ホリゾンタル整枝法

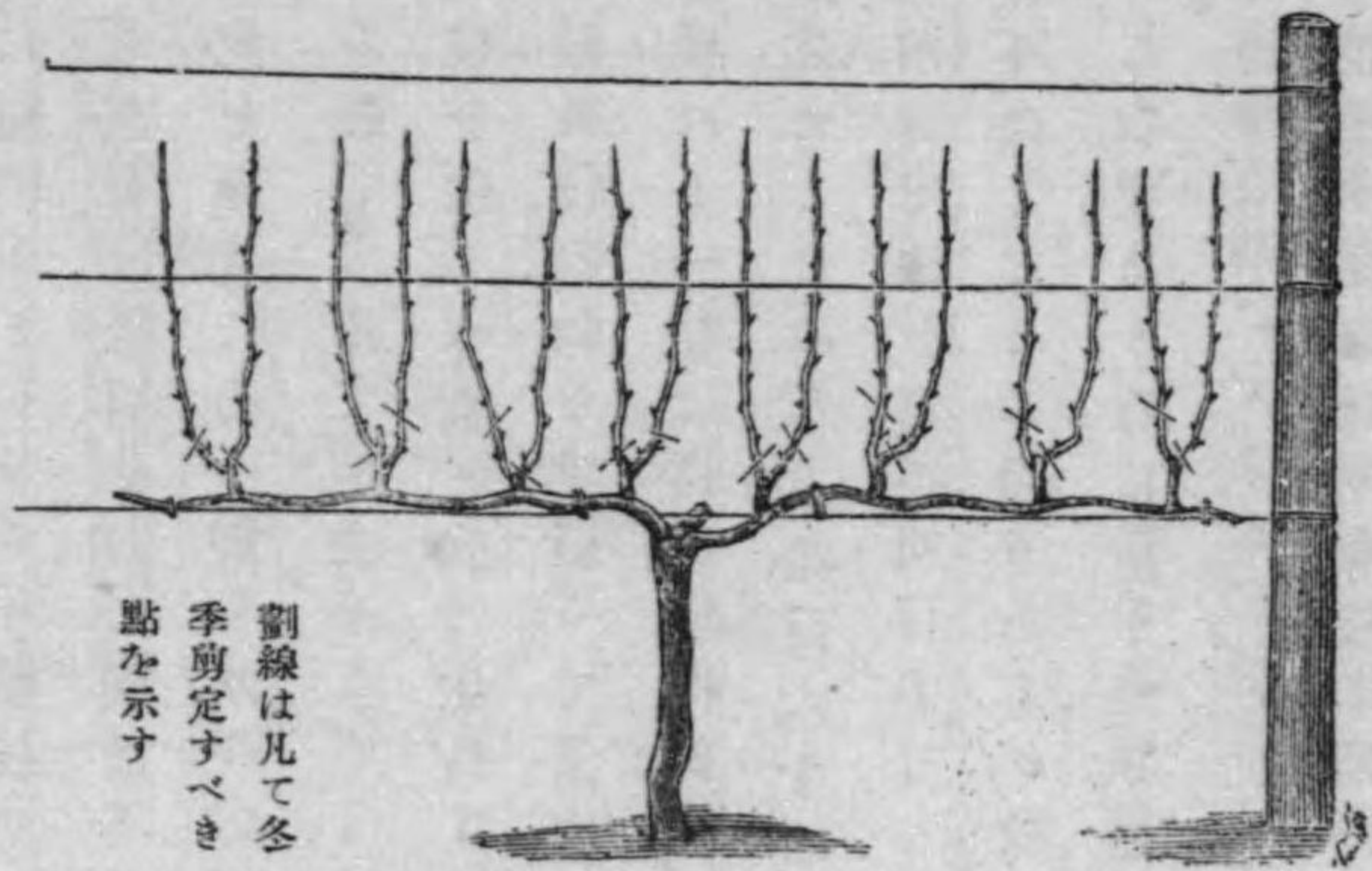


第 百 六 十 三 圖

離に六尺の主柱を打ち込み地上部を四尺となす、各主柱を通じて地上一尺五寸及

て他の一つは短梢ホリゾンタル整枝法(Horizontal Arm Spur System)是れなり、長梢ホリゾンタル整枝法は種枝を二本となし長梢剪定を行ひ左右水平に誘引し毎年豫備枝に由て更新する方法なり、此方法を施さんには二間の距

第 百 六 十 四 圖 短梢ホリゾンタル整枝法



冬に於て凡て冬季剪定すべき點を示す

び三尺の二條の鐵線を緊張す、栽子は六尺の距離に栽植し栽植後第二年目に幹身

の地上一尺乃至一尺二三寸の所より二本の新梢を發生せしめ支線に纏絡し適宜夏季剪定を行ひ生長を完たからしむ、斯くて冬季に至りて二本の枝條は二尺乃至二尺五寸の長梢剪定を施し第一線に纏束するなり、翌春各腋芽より數多の結果枝を生ずるが故に生長するに従ひ第二線に結着し最後の花穂より三四葉にて摘心す、而して幹身の上端若くは種枝の基部より發生する二本の新梢を豫備枝となし第二線上に誘引し若し花穂を着生せるときは可成摘去して結果せしめざるを良しとす、果實採收後冬季剪定にて結果終りし種枝は豫備枝の基部より剪去し豫備枝は前年と同じく二尺乃至二尺五寸に剪定して再び第一線上に纏絡するにあり、斯く毎年同様の方法を繰り返し一

定の區域内に結果を持続せしむるなり(第百六十二圖及第百六十三圖)

次に短梢ホリゾンタル整枝法は主枝の構成法に於て前記の長梢法と異ならざれども左右に誘引せし二腕は不易にして更新せらるゝことなく各腋上に於て短梢剪定を施すにあり即ち水平の種枝より發生せる結果枝は冬季剪定にて基部二三芽を残して凡て剪去せらるゝなり然るときは翌年に至りて各短梢より二本の結果枝を生すべきが故に生長するに従ひ第二線に纏絡すること長梢の場合に於ける結果枝の如くす斯くて冬季剪定にて主枝に近き一本を残して他の一枝を剪去し残れる一枝は再び短梢剪定法を繰り返す斯くの如き方法を持続して結果枝を發生せしむるなり(第百六十四圖)

短梢剪定法を連年施行するときは該部は瘤狀となり主枝を遠かりて結果枝の發育不良となるの傾きあるが故に四五年毎に主枝に近く萌出する新梢を得て更新するの要あり時に斷乎たる施術を下し幹身を切斷し主枝を更新すること無きにあらず

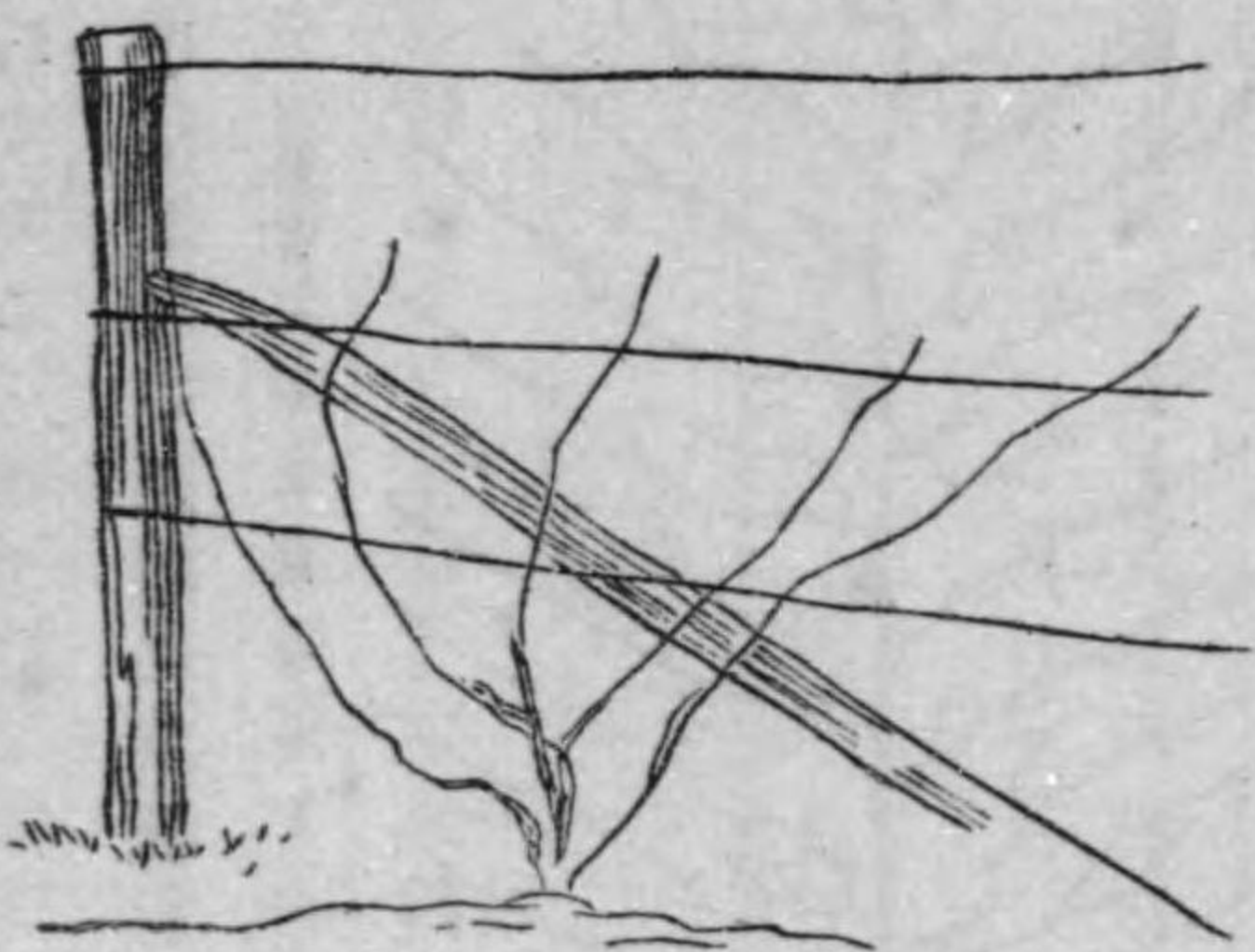
短梢ホリゾンタル整枝の種枝は長梢に於ける夫れよりも短かきを常とす而して一腕に有する短梢の數は品種風土栽培法に依り異なれども通例約三寸乃至五寸

の間隔を保ちて四乃至五を有せしむるものとす此方法は樹を異にして上下二段三段等隨意整枝することを得べし佛國トムリー地方にて生食用葡萄栽培に専ら應用せられつゝある方法にして一名トムリー整枝法(Thomery Training System)とも云ふ

(チ) 扇狀整枝法(Fan Training System)

幹身を地上低く保ち發生せる結果枝は牆根に凡て纏絡し扇狀に配置するにあり而して冬季根際にて接して短梢剪定を行ひ翌年發生する結果枝は再び牆面に纏絡するなり去れば樹姿は一定せず年を異にして變形するなり此法は老樹に至りても施行し得べく寒冷なる地方に於て枝蔓を地中に埋伏する際に便利なる得點あり然れども果穂は下部のものを摘除するにあらざれば地に接するの恐れあり此法は古く行はれたる方法なれども今日普く應用するもの無きが如し

第百六十五圖



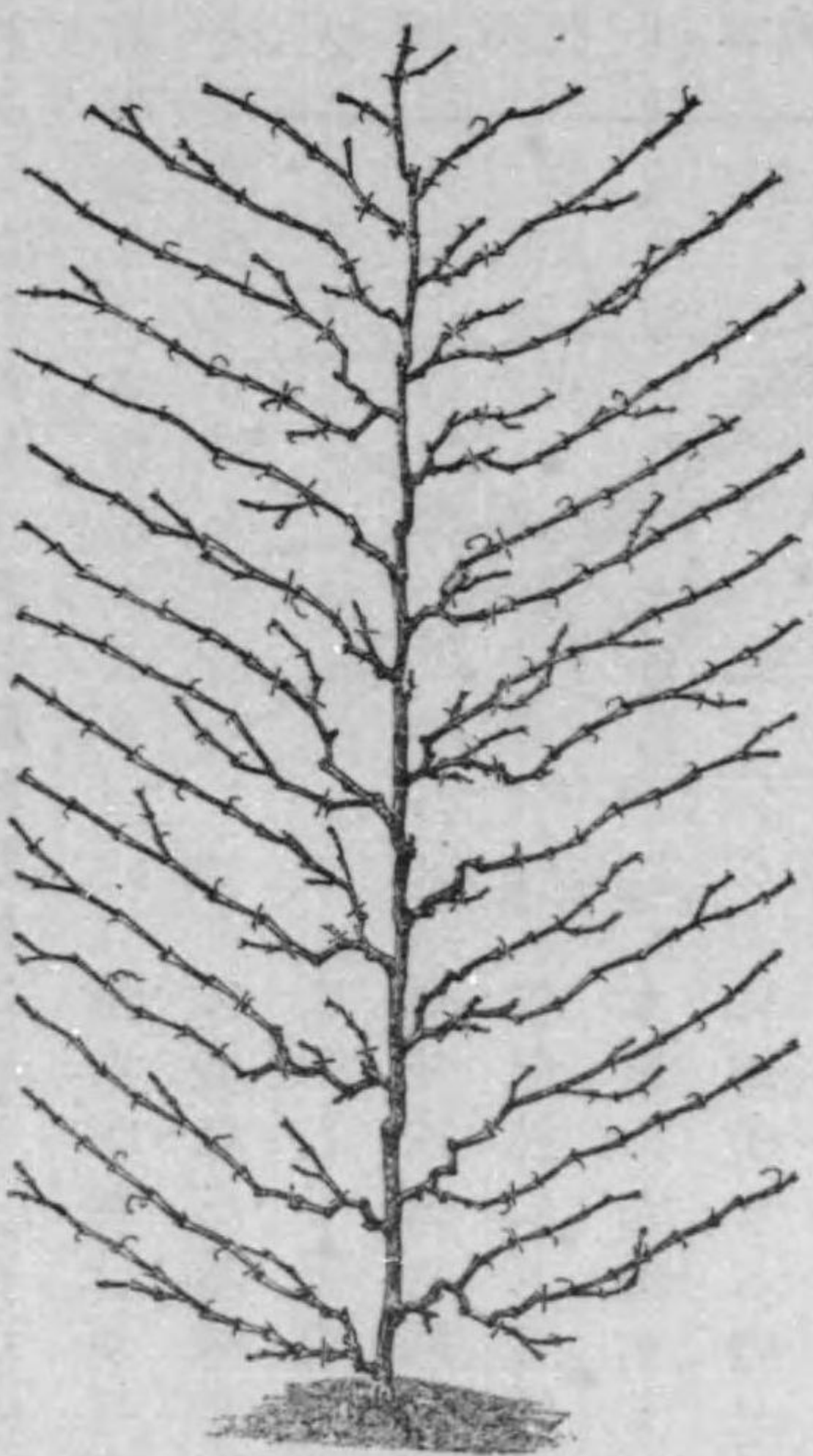
扇狀整形枝

(リ) コルドン整枝法(Cordon Training System)

此方法は硝子室栽培に専ら應用せらるゝ所のものにして時に壁面誘引の場合に施行することあり、

栽子は五尺の距離に栽植し地上一尺に先づ第一線を架して其れより一尺毎に鐵線を緊張すべし、栽子は第二年

第百六十六圖 コルトン整枝



と前年の如くす、而して結果枝は短梢剪定を行ひ基部二三芽を残して剪定するなり、斯くて毎年一段宛形成し結果枝は年々短梢剪定を行ひて遂に第百六十六圖の如く整枝するにあり、

線に至りて幹身を第一線に沿ひて一尺内外に剪定す、而して上端の一枝は垂直に誘引し、兩側の各一枝は一二節に花穂を齎して伸長するを以て左右の支線に結束す、冬季に至りて中央の主幹は第二線の所にて剪定し翌春三枝を生せしむるこ

乙 株作整枝法

歐羅巴種の醸造用葡萄栽培に専ら行はるゝ所の方法にして彼の有名なる佛國ポルドー及コートドール地方の醸造用葡萄としてビノー族其他歐洲種に遍く行はれつゝあり、又米國加州にては乾果及生食用共に歐洲種にして凡て此方法を採用せり、

栽子は六尺乃至八尺の畦中に三尺乃至六尺の距離に栽植し地上一尺乃至一尺二寸の所より五六本の結果枝を發生せしめ、株毎に

第百六十七圖 株作整枝



一本の支柱を設けて其上端を緩かに纏絡す、而して支柱は高さ三尺の鐵線によりて支持せしむ、寒冷なる地方に在りては一英畝に三千本乃至六千本を栽植するを常とす、米國加州にては結果枝は支柱に纏絡することなく自然の垂下に委せり、果實採收すれば冬季剪定にて基部二三芽を残して剪去す、翌年數多の新梢を生ずるが故に中最も完全なる五六本の結果枝を残して他を凡て摘去するなり、斯くて毎年短梢剪定に依りて結果を持続するに在りて右の方法を株作法又は短梢株作法とは云ふなり、

丙 螺旋形整枝法

此の法は鉢植盆栽仕立の葡萄に應用して最も妙なり、

第百六十八圖 螺旋形整枝



螺旋の直径は普通八寸乃至一尺二寸位にして一尺五寸を超ゆること稀れなり、豫め竹若くは鐵線にて螺旋を作り周縁に支柱を立て、結縛し枝蔓を鐵線に沿ひて纏絡するにあり、枝蔓より發生せる結果枝は上方の支線に結着す、歐洲種にては短梢剪定にて結果枝を直ちに短剪するにあれども米國種の多くは一方に結果せしむると同時に種蔓の基部より發生せる枝梢を以て更新せらるゝものとす、

第五節 樹姿更新法

果樹を栽植するも全く自然の生育に委し何等の剪定を施すことなく生長の初期より一定の樹姿を與へて整枝することなきときは樹姿の下部の枝條は發達せず

して漸次枯損し爲めに果實の採收手入に不便を感ずること甚だしきのみならず果の品質並に收量を失墜せしめ樹頭鬱閉して枝條の錯亂を來し結果を不良ならしむるが故に斯る果樹には速かに適當なる剪定を行ひ樹姿を改善せしめざるべからず、

樹姿を更新せんとするに先き立ち如何なる樹姿に整枝すべきかを第一に決定しおかざるべからず、然る後に主枝と側枝の區別を明かにし各、整枝法に由り主枝の數を定め適當なる位置に配置し不要なる枝條は凡て剪去せらるゝものとす、而して側枝は側枝剪定を下し果枝着生の位置を明かにすべし、樹幹若し高大にして下部に枝梢を缺如せるとき低作りに樹姿を整枝せんと欲する場合には已むを得ず所要の高さに於て幹身を切斷し不定芽を利用して枝條を發生せしむべし、是等の枝條は自己の整枝せんと欲する形狀に配置し常に剪定を怠らず再び醜惡なる樹姿に歸復するなからんを期せざるべからず、

樹姿上に空所を生ぜるときは隱芽の上部に目傷を施し新梢を萌出せしめ或は春季綠枝誘接法に由り空虚を補填すべし、又は芽接法を應用するも可なり、

中央主枝は常に勢力強盛にして側主枝より側枝と漸次勢力微弱となるに至るも

のなれば整枝上主枝の剪定は最も注意すべきことにして毎年樹頭を剪縮して下部の枝條の發育を助成せしめざるべからず。

第六節 樹勢更新法

果樹の多くは老樹となるに従ひ樹勢衰微し枝條の活力鈍く果枝は老朽して枝幹の基部より次第に其跡を絶つに至るものなれば樹姿自ら醜惡となり收穫減少し果實の品位亦劣悪なるを免れず去れば剪定に由り新梢の發育を俟て組織を新たならしむると共に枝幹に新活力を與へて樹姿を更新するを良しとす斯る際に新たに栽子を以て植ゑ換ふるも可なれども其儘になしおき適當なる剪定を下し樹勢を催進するに利あるものにして直ちに原體に復し再び結果を持続せしめ得べく時として是が爲めに却て品質を改善せしむることあり、
老衰せる果樹の樹勢を更新せしむるには樹頭を強く剪枝し以て新梢の發生を強盛ならしむるにあり而して樹頭の剪去を行ふと同時に根群の外縁おも剪定し多量の窒素質肥料を施し新根の發生を催進して發育を旺盛ならしむるの方法にして爰に樹勢は新活力を得て勢力を恢復するに至る時に樹頭に高接ぎを行ふこと



梨・洋の植鉢

あり、結果年齢に達すること早きのみならず樹勢並に樹姿の更新上大に良好なる手段なりと云ふ可きなり。

第七節 鉢植果樹整枝剪定法

果樹を鉢植ると爲すときは該果樹に適當なる土壤を與へしめ水濕及養料共に制限し得べく細密なる注意を拂ふに適當するものにして根群の發育を抑制して細根の分岐を促さしむるが故に結果を促進し品質を改善し常に良質の果實を生産するものなり而して鉢植の果樹は盆栽用として一部觀賞の目的に珍重せらるゝものにして艶麗なる花は春に爛漫と咲き滿ち夏に翠綠滴る許りの綠葉を飾り秋に至れば紅果累累として技も垂れ曲りて地に伏す許りの風情は恐らく果樹の盆栽を措て他に求むること能はざるべし。

鉢植果樹の剪定整枝法として殊更存するものにあらず其方法及原理は凡て上來記述し來れる方法に準すれば足れるなり元來鉢植として仕立つるには樹姿を矮小に整枝するを要するものなれば絶えず剪定を行はざるべからず而して根は不易に伸長を抑壓せられ居るが故に圃地に於けるものよりも生長遲緩なるは勿論

にして新梢の發育強盛ならず、而も樹姿は小域に保つを要するを以て枝梢の剪定は夏季と冬季とを問はず常に短剪せらるゝの殊なれる管理を要するに過ぎず、根は毎年春季植ゑ換への際に其外縁の一部を剪去して鉢植に容易ならしめ根群を小域に保ちて枝條の發育を抑制し且つは新根の發生を速かならしむる爲め必ず行ふべきことなりとす。

梨の鉢植用としての果樹は日本梨にありては實生砧のものを用ふれども西洋梨に在ては根砧砧のものを用ふるを宜しとす、整枝法として矮小なる圓錐形盃狀形ヒューゾー形整枝の如きは恰好の樹姿として數ふべきものなり、枝條は地上八寸乃至一尺内外の所より伸長せしめ主枝は毎年二寸乃至七八寸に剪定し全體の樹姿を二尺五寸乃至三尺の高さに維持するを最も宜しとす。

苹果はズーサン砧若くは海棠砧のものを用ひ梨と同じく圓錐形盃狀等矮性の短幹整枝最も宜く適す。

桃は實生の共砧にて可なり、只樹勢の強健なる品種を選ぶ可し、盃狀及圓錐狀の樹姿は桃の鉢植として望ましき形狀にして地上七八寸の高さより枝條を調へ全長二尺乃至三尺に保つを適度とす、桃は繁茂し易き果樹なれば夏季剪定を怠らす豈

閉を避くるに心掛く可し、主枝は年々四五寸に剪り縮め同處に結果枝を維持して下枝の上らざる様剪定に力む可きなり。

李及杏にはミロバラン李砧を用ひ櫻桃にはバラジ砧のものを用ふるを良とす、共に盃狀叢狀形圓錐狀に整枝するに適す可し、枝條は可成樹幹の下部より抽出せしめ短かく剪定し短果枝を保存すべし。

無花果は屢々盆栽として珍重せらるゝものにして最初幹身を地上四五寸にて摘心し三四本の枝條を發生せしめ盃狀的に整枝するなり、肥培に注意するときは美大なる果を産するものなり。

カーラント・グリースペリーの類は鉢植果樹としてコップ形に整枝するに適し賞観用として甚だ美觀を添ふるを以て珍重せらる。其他葡萄、柿、柑橘の類も鉢植となし結果良好なり。

實果樹剪定整枝法 終

明治四十三年三月二十五日
明治四十三年四月一日
大正十四年十二月五日
大正十四年十二月十日
初版印刷
初版發行
增訂印刷
增訂發行

訂果樹剪定整枝法
〔定價金參圓八拾錢〕

著者 草野計起

發行者 東京市日本橋區通三丁目十番地
河出靜一郎
電話大手二七七七番

發行所 東京市日本橋區通三丁目十番地
成美書店
振替東京一七一九番

印刷所 東京市京橋區館屋町五番地
文祥堂印刷所



終